

# ポーランド政治・経済・社会情勢

(2019年8月8日～2019年8月14日)

令和元年(2019年)8月16日

H E A D L I N E S	
<b>政治</b> 農民党とクキス'15による選挙協力の発表 ヴィテク新下院議長の選出 政党別支持率 カミンスキ内務・行政大臣の任命 チャプトヴィチ外相、ポーランドの議長月に際し国連安保理に出席	【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届」を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります。 問合せ先 大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書、在外投票、旅券、戸籍、国籍関係の届出についてもどうぞ。
<b>治安等</b> ポーランド・リトアニア共同のバルト鉄道危機管理訓練の開催 第19回カティン・バイクラリーの開催 トルコ人密入国あっせん業者の摘発	
<b>経済</b> 中央銀行総裁による金融緩和策についての発言 干ばつによる被害 7月の消費者物価指数 新空港関連動向 外国人労働許可関連動向 建設産業関連動向 エネルギー価格の上昇影響 国内鉱業政策の公表予定	
<b>大使館からのお知らせ</b> 長期滞在を目的にシェンゲン協定域内国に渡航する際の注意 欧州でのテロ等に対する注意喚起 犠牲祭(イスラム教の祝日)期間に伴う注意喚起 「たびレジ」への登録のお願い 国際機関への就職に関心がある皆様へ 大使館広報文化センター開館時間文化行事・大使館関連行事 読者からのお知らせ	
在ポーランド日本国大使館 ul. Szwoleżerów 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000 <a href="http://www.pl.emb-japan.go.jp">http://www.pl.emb-japan.go.jp</a>	
<b>政 治</b>	
<b>内 政</b>	

## 農民党とクキス'15による選挙協力の発表【8日】

8日、コシニャク=カミシュ農民党党首とクキス'15のクキス代表は、本年10月の議会選挙における協力に合意したと発表した。クキス'15の候補者は農民党の選挙リストより出馬し、クキス代表はオポー

レ選挙区の筆頭候補者として出馬予定である。

## ヴィテク新下院議長の選出【9日】

9日、クフチンスキ下院議長の後任を選出する投票が下院で行われ、エルジビエタ・ヴィテク内務・行

政大臣(与党「法と正義」(PiS))(投票前にドゥダ大統領により同大臣職を解任)が245票を得て選出された。

#### 政党別支持率【12日】

12日に発表された世論調査機関IBRiSによる、議会選挙に関する政党別支持率調査では、与党「法と正義」(PiS)が支持率41.2%で首位を獲得した。第2位は、「市民連立」(KO:市民プラットフォーム、「近代」, ポーランド・イニシアティブ)で27.0%, 第3位は「左派」(Lewica:民主左翼連合, 「春」, 「左派と共に」)を中心とする選挙協力)で11.6%, 第4位は「ポーランド連立」(KP:農民党とクキス'15の選挙協

力)で6.5%となり、その他は足切りラインに到達しなかった。

同支持率に応じて議席が割り振られた場合、PiSが243議席、KOが151議席、Lewicaが45議席、KPが20議席、ドイツ系少数民族が1議席となり、PiSが単独過半数を維持することとなる。

#### カミンスキ内務・行政大臣の任命【14日】

14日、ドゥダ大統領は、下院議長に就任したヴィテク内務・行政大臣の後任として、カミンスキ特殊機関調整担当大臣を任命した。これにより、カミンスキ新大臣は2つの大臣職を兼務することとなる。

### 外交・安全保障

#### チャプトヴィチ外相、ポーランドの議長月に際し国連安保理に出席【13日】

13日、米国訪問中のチャプトヴィチ外相は、ポーランドが議長月を務める国連安保理に出席し、複数の国家による国際合意の不遵守がもたらした困難な歴

史を歩んだポーランドにとって、国際法の強化は常に極めて重要な問題であり続けてきたと述べた。同外相は、20日に中東情勢、22日に宗教的マイノリティの権利に関する同理における会合に参加する。

### 治 安 等

#### ポーランド・リトアニア共同のバルト鉄道危機管理訓練の開催【9日】

9日、ポーランド国鉄保線会社(PKP PLK)は、リトアニア国鉄(LG)との間で鉄道危機管理に関する協力協定を締結し、リトアニア南部のモカバ駅で初の共同危機管理訓練を実施した。モカバは、ワルシャワ、カウナス、タリン、ヘルシンキを結ぶバルト鉄道計画(2026年完成予定)で、ポーランド・リトアニアの国境接続駅となる。PKP PLKのオルキエヴィチ副社長は、路線交通量増加に備えるには安全が最重要と述べた。

#### 第19回カティン・バイクラリーの開催【10日】

ポーランドのバイク愛好家らによって構成される国際カティン・バイクラリー協会は、第二次世界大戦中にカティンの森など東方で虐殺されたポーランド人の追悼及びポーランドの歴史啓発を目的とした第19回

カティン・バイクラリーを開始した旨発表した。ラリー参加者は、10日にワルシャワを出発後、二手に分かれ、第一グループはロシア北西部アルハンゲリスクのポーランド人墓地を訪問、第二グループは、ウクライナ、ロシア、ベラルーシを回る予定とされる。

#### トルコ人密入国あっせん業者の摘発【12日】

国境警備隊は、偽装結婚等の手口でトルコ人やアルバニア人の集団密入国をあっせんしたとしてトルコ人男性の身柄を拘束した。同トルコ人は、国際犯罪組織の構成員で、経済的に困窮した女性を楽に金が稼げるなどと抱き込み、偽装結婚相手として利用していた。これまでの捜査でグループ構成員とみられるポーランド人及びトルコ人5人が同容疑で拘束・告訴されており、さらに外国人9人が国際指名手配されている。

### 経 済

#### 経済政策

#### 中央銀行総裁による金融緩和策についての発言【11日】

ポーランド中央銀行の月例報告書において、グロピンスキ総裁は、コア・インフレ率が2021年に低下していれば、金融政策の変更は不要としつつ、ユーロ圏の経済減退によりポーランドの経済状況が著しく悪化する場合には、更なる金融緩和策

が必要になるであろうと述べた。同発言を驚きを持って受け止めた専門家もおり、ポーランドでは予測を上回る物価上昇が生じており、金融引き締め政策が必要ではないかとの議論も起きている。更に、金融政策委員会では、ポーランドでは既に政策金利が最低水準に達しており、更なる金利引き下げは負の影響をもたらすという意見も多いと伝えられ

ている。ただし、グラピンスキ総裁は金利の安定がマクロ経済の安定性を促進するという見解を示したものである。

**干ばつによる被害【13日】**

政府の発表によると、7月末時点の試算で干ばつによる農業被害は約109億ズロチ(2億5,000万ユーロ)に上る見込みという。穀物、果物、テン

サイ等の野菜、タバコ、ホップ等が影響を受けている。アルダノフスキ農業・農村開発大臣は、欧州委員会に対し今回の干ばつ被害を受けた農家への支援を要請した。

(※7月26日発行版の「ドゥダ大統領、26歳以下を対象とした個人所得税免法案に署名」という記事に関しまして、「26歳未満」に訂正します。)

マクロ経済動向・統計

**7月の消費者物価指数【14日】**

中央統計局(GUS)によれば、7月の消費者物価

指数(CPI)は対前年同月比2.9%増、対前月比同となった。

ポーランド産業動向

**新空港関連動向【8日】**

国営鉄道会社 PKP Intercity は、新中央空港(CPK)建設に伴う鉄道整備事業に懸念を示していると伝えられた。CPKプロジェクトに関しては、2029年までに20両もの高速列車を含む130両の車両調達が必要とされているが、そのための資金確保に懸念が示されている。なお、インフラ省は2027年の新空港開設を目指しているが、専門家の主張によれば既に計画は1年ほど遅れているとされている。

であったが、現在は206日程度となっているとしている。これにより、職業訓練を受けた外国人労働者の国内雇用維持への影響が懸念されている。

**外国人労働許可関連動向【8日】**

ポーランド最高監査院(NIK)の報告によれば、5年前前は外国人の労働許可がおりるのに64日程度

**建設産業関連動向【14日】**

ポーランド建設産業雇用組合及びポーランド道路建設産業会議所は、モラヴィエツキ首相宛に建設産業の窮状を訴える書簡を出した。昨今の建設プロジェクトのコスト増加が深刻な状況となっており、建設業界全体や国の経済に影響を及ぼしかねないとしている。なお、2019年の第1四半期のコストに関しては、2016年の同時期に比べ、20~60%上昇している。

エネルギー・環境

**エネルギー価格の上昇影響【9日】**

ジェチポスポリタ紙への寄稿において、スヴィンスキ専門家は、将来的にエネルギー価格は、温室効果ガス排出証書価格の上昇により、上昇傾向となろうとコメントした。また、8日、S&Pグローバルプラッツ社の分析予測によれば、2025年までに欧州におけるエネルギー価格は15%上昇すると報告した。

ガベンダ・エネルギー副大臣は、9月末に鉱業に係る計画を公表すると述べた。国営鉱業企業(Tauron社、JSW社)の財務改善、新鉱床の開発、エネルギー熱利用の向上等が重要な課題となっている。同副大臣は、石炭ガス複合化発電、水素、メタノール精製ガス等に関心があり、9月に石炭ガス複合化発電に関する議論のため訪日予定である。これら新技術は、気候変動対策に資するとして鉱業分野に新たな可能性をもたらすとされている。

**国内鉱業政策の公表予定【12日】**

大使館からのお知らせ

**長期滞在を目的にシェンゲン協定域内国に渡航する際の注意**

最近、ドイツ以外のシェンゲン協定域内国に長期滞在を目的と申告した邦人が、経由地であるドイツでシェンゲン協定域内への入国審査を受ける際に入国管理当局から(1)最終滞在予定国の有効な滞在許可証、(2)ドイツ滞在法第4条のカテゴリーD査証(ナショナル・ビザ)、又は(3)同D査証に相当する滞在予定国の長期滞在査証の提示を求められ、これを所持していないために入国を拒否される事例が発生しております。

このため、現地に到着してからの滞在許可証取得を予定し、最初にドイツ入国を予定している場合には、注意が必要です。

ドイツ以外の国では同様の事例は発生しておりませんが、シェンゲン協定域内国での長期滞在を目的に渡航する場合には、滞在国及び経由国の入国審査、滞在許可制度の詳細につき、各国の政府観光局、我が国に存在する各国の大使館等に問い合わせるなどし、事前に確認するようにしてください。詳しくは下記リンク先を御覧ください。

[http://www.anzen.mofa.go.jp/c\\_info/oshirase\\_schengen\\_2.html](http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_schengen_2.html)

(注):シェンゲン協定とは、シェンゲン協定加盟国の域外から同加盟国域内に入る場合、最初に入域する国において入国審査が行われ、その後のシェンゲン協定域内の移動においては原則として入国審査が行われないといった協定です。

○シェンゲン協定域内国(2019年7月現在):26か国

アイスランド、イタリア、エストニア、オーストリア、オランダ、ギリシア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、マルタ、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、リヒテンシュタイン

### **欧州でのテロ等に対する注意喚起**

欧州では、「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL)の台頭以降、一般市民等のソフトターゲットを標的としたテロが相次いで発生しており、今後も更なるテロの発生が懸念されます。

観光客やイベント等を標的とするテロに警戒する必要があることに加え、イベント等の警備のため手薄となった他の都市でのテロの実行も懸念されます。以上を踏まえ、以下のテロ対策をお願いします。

(1)外務省が発出する海外安全情報及び現地報道等で最新の治安情勢等の関連情報の入手に努めるとともに、日頃から注意を怠らないようにする。

(2)以下の場所がテロの標的となりやすいことを十分認識する。

観光施設、観光地周辺の道路、記念日・祝祭日等のイベント会場、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケット、ナイトクラブ、映画館等人が多く集まる施設、教会・モスク等宗教関係施設、公共交通機関、政府関連施設(特に軍、警察、治安関係施設)等。

(3)上記(2)の場所を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる、できるだけ滞在時間を短くする等の注意に加え、その場の状況に応じた安全確保に十分注意を払う。

(4)現地当局の指示があればそれに従う。特にテロに遭遇してしまった場合には、警察官等の指示をよく聞き冷静に行動するように努める。

(5)不測の事態の発生を念頭に、訪問先の出入口や非常口、避難の際の経路、隠れられる場所等についてあらかじめ入念に確認する。

詳しくは下記リンク先を御覧ください。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

### **犠牲祭(イスラム教の祝日)期間に伴う注意喚起**

8月11日(日)から8月14日(水)頃(国・地域によって前後する可能性があります)までは、イスラム教の犠牲祭(イード・アル＝アドハー、一部の地域ではクルバンやタバスキとも言われます)に当たります。現在のところ、犠牲祭に際してテロの実行を呼びかける声明などは確認されていませんが、犠牲祭期間中やその前後に海外に渡航・滞在される方は、大規模行事はテロ等の標的となり易いことに留意してください。

### **「たびレジ」への登録のお願い**

3か月以上海外に滞在する方は在留届の提出を、3か月未満の場合は「たびレジ」への登録を必ず実施してください。渡航先の最新安全情報や、緊急時の大使館又は総領事館からの連絡を受け取ることができます。また、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておくようにしてください。

下記リンク先から「たびレジ」に登録することができます。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

### **国際機関への就職に関心がある皆様へ**

在ポーランド日本国大使館では、国際機関への就職に関心がある日本人の方を対象に、外務省国際機関人事センター作成の資料を配付しています。御希望の方は、大使館広報文化センターへお問い合わせください。

**【お知らせ】大使館広報文化センター開館時間**

月曜日 9:00 - 19:00 火曜～金曜日 9:00 - 17:00

当センターでは、日本関連行事や各種展示のほか、マンガコーナーを含む書籍の閲覧、本・CD・DVD等の貸出しを行っています。

イベント情報: <https://www.facebook.com/JapanEmb.Poland>

問合せ先: 在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話: 22-584- 73 00 , E メール:

info-cul@wr.mofa.go.jp, 住所: Al. Ujazdowskie 51, Warszawa)

月曜日 9:00 - 19:00 火曜～金曜日 9:00 - 17:00

文化行事・大使館関連行事

**【開催中】第15回国際音楽祭「ショパンと彼のヨーロッパ」【8月14日(水)～9月1日(日)】**

ワルシャワにて、国立ショパン研究所主催による『第15回国際音楽祭「ショパンと彼のヨーロッパ」』が開催中です。ショパン、モーツァルトやバッハのコンサートの他、8月17日(土)および18日(日)20時に広島交響楽団によるコンサートが予定されています。

開催場所: ワルシャワ, Filharmonia Narodowa, ul. Sienkiewicza 10

詳細: <https://festiwal.nifc.pl/en/2019/>

**【予定】日本文化祭「夏」【8月23日(金)～24日(土)】**

ノヴェ・ミアスト・ルバヴスキエにて、ノヴェ・ミアスト・ルバヴスキエ市文化センター所属の青年グループ主催による『日本文化祭「夏」』が開催されます。演劇「妖怪」と「桃太郎」、日本料理ワークショップ、漫画デモンstrーション、茶道の紹介、書道・折り紙ワークショップ、コスプレなどが予定されています。

開催場所: ノヴェ・ミアスト・ルバヴスキエ, バラ庭園(Ogród Róż)

詳細: <https://www.facebook.com/Przetw%C3%B3rnia-San-Przystanek-Japonia-377422962838929/>

**【予定】V4+JAPAN交流展 美は国境を越えて【8月26日(月)～10月31日(木)】**

在ポーランド日本大使館広報文化センターにおいて、日本、チェコ、ハンガリー、ポーランド作家による交流展が開催されます。入場は無料です。

開催場所: 在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話: 22 584 73 00 , E メール:

info-cul@wr.mofa.go.jp, 住所: Al. Ujazdowskie 51(4階), Warszawa)

**【予定】百年波【8月31日(土)～9月22日(日)】**

ヴロツワフにて、ポーランド日本親善友好財団「波」主催による『百年波』が開催されます。日本の伝統的な文化の紹介(音楽、茶道、書道、生け花、盆栽など)や日本武道フェスティバルなどが予定されています。

開催場所: ヴロツワフ, Wyspa Słodowa および Impart (ul. Mazowiecka 17)

詳細: <http://fundacja-nami.pl/>

読者からのお知らせ

**【予定】コンサートの御案内**

演奏者:

Arielle Beck (France), Naomi Yamaguchi (USA, Japan), Kevin Jansson (Ireland) and the director of Magdalena Hirs (Poland)

日程及び開催場所:

8月13日 Pan Tadeusz Museum, Wrocław

8月15日 5pm, Chopin Point Warsaw,  
Krakowskie Przedmieście 62, Warsaw 00-322

8月16日(12pm & 2pm), 17日(3pm), Dom Urodzenia Fryderyka Chopina

Żelazowa Wola 15, 96-503 Sochaczew

<https://muzeum.nifc.pl/pl/muzeum/wizyta-informacje-miejsce>

Facebook

<https://www.facebook.com/events/439673596586016/>

本資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。

報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。

記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

#### **皆様からの情報提供をお待ちしています**

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やお勧めのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまで御連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますので御了承ください。)

#### **【お問い合わせ・配信登録】**

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先Eメールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のEメールアドレスまで御連絡ください。大使館ウェブサイト([http://www.pl.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm))も併せて御覧ください。

本資料に関する問い合わせ E メールアドレス ([news@mail@wr.mofa.go.jp](mailto:news@mail@wr.mofa.go.jp))